

第 21 回 議会報告会 （意見交換会記録）

令和 8 年 2 月 1 日（日）13 時 30 分から 15 時（意見交換会は 14 時 15 分から約 30 分）

場所：高砂市役所 分庁舎 2 階（全体での説明の後、3 グループに分かれて意見交換）

市民からの主な意見	回 答
<h3>高砂市民病院について</h3>	
<p>赤字の話ばかり聞くが、通院患者にはその実感がない。現在は加古川中央市民病院に通っているが、待ち時間の長さ、遠さ、支払いの不便さが課題。高齢化で免許返納を悩んでいるが、車がないと通院が困難。</p>	<p>医療機関の役割分担として、急性期は加古川中央市民病院、回復期は高砂市民病院という棲み分けを進めている。今後はさらに情報共有に努め、連携を強化していく。</p>
<p>公設公営から公設民営になることで、患者目線でのどのような変化が生じるのか見えにくい。</p>	<p>赤字の大きな要因は医師不足。若手医師が大病院へ集中している現状がある。民間運営であれば医師確保や経営ノウハウ導入が期待できる。現体制では診療科や救急対応に限界があり、方向転換が必要。</p>
<p>建て替えにあたり、利用者の不安や影響をどう考えているか。</p>	<p>「現地建て替え」「移転建て替え」「大規模改修」の 3 案を比較し、外来を含め患者への負担が最も少ない「移転建て替え」を選択した。建設費による市民負担の詳細は今後の課題である。</p>
<p>民間になれば医師確保は本当に可能なのか。公募に具体的な目算はあるのか。</p>	<p>医師確保が実現できなければ、民営化そのものの意義が失われる。公募にあたっては、医師確保に関する具体的な実現可能性や根拠を明確に示してもらうことが重要である。</p>
<p>指定管理者が見つからなかった場合はどうするのか。</p>	<p>見つからなかった場合の議論は行われたが、現状に対する強い危機感を踏まえ、民営化を進めるとの判断になった。長期にわたり継続して運営してもらえる指定管理者を確保するために、あらゆる可能性を検討し、全力で取り組む必要があると考えている。</p>
<p>議員の手当が上がる一方で、市長や事業管理者（医師）の給与が 20% カットされると聞いた。現場で働く医師の給与が下がるのは問題ではないか。</p>	<p>事業管理者は企業という「社長」の立場。市長は公約不履行の責任、事業管理者は経営責任を明確にするための減額である。現場の一般職ではなく、経営層の責任としての措置である。</p>
<p>人口減少の中、建て替えて採算が取れるのか。市民病院は本当に必要か。「この先生なら」と思わせるような目玉（ゴッドハンド）となる医師を確保すべきではないか。</p>	<p>公設公営のままでは医師確保が難しいため、民間の力を活用する「指定管理者制度」の導入を検討している。総合診療医の確保や、救急のたらい回しを防ぐ体制を構築し、回復期医療の拠点としての役割を果たしていく。</p>

病院完成までの流れは。	現時点に於いて、令和13年の完成を計画している。それに伴い、建設予定地に関連する文化会館は令和9年度頃に閉館・解体となる可能性が高い。
公設の場合、建物はどうなるのか。	建物は基本的に市が整備する方向ですが、一部を相手方に負担してもらおう案もある。
赤字の推移を見ると、もっと早く対応できなかったのか。	市長は公設公営を掲げてきた経緯があるが、結果として判断が遅れた部分は否めない。
病院を閉める、または加古川との統合という選択肢はなかったのか。	統合の議論は過去にあったが、まとまらなかった。経営面では閉院も選択肢となり得るが、新病院建設は後戻りできないため慎重な判断が必要である。
本当に総合病院が必要という市民の声を把握できているのか。	地域によっては加古川中央を利用する市民もいるが、現在も入院・通院の患者がいる。加えて、市内の開業医は減少傾向にあり、現利用者をどう守るかという考えは必要である。コロナの感染症対応でも重要な役割を果たしてきたことから、病院の必要性は一定程度あると認識している。
<b>文化会館について</b>	
R8年度の子定を取ろうとしていたが、新聞報道後に変更せざるを得なかった。4年間イベントはどうなるのか。	約4年間は文化会館が使えない可能性がある。成人式を体育館で実施した例もある。ぼっくりんホール300名規模を残す案もあったが、駐車場と一体で建替え予定。規模や内容は今後、市民を交えた議論が必要。
文化会館がない4年間の間に構想を進めるのか。	現時点では具体的に決まっていないが、担当部署は新設されている。
<b>その他（公共交通・防災・物価高対策）</b>	
高砂町は高齢化が進み、移動手段がないため買い物難民が発生している。じょうとんバスは帰りの便がなく、タクシー代も高額。市内での買い物を充実させてほしい。マックスバリュの移動販売やコープの利用などで凌いでいるのが現状。住みよい街づくりを強く求める。	高砂町の一部では利用者が少なく、バスが休止状態にある。連合自治会とニーズ把握を行い、移動手段（足）の確保に努める。また、阿弥陀地区で展開中の移動支援「あみだ つなGO」のような事例を横展開できるように検討したい。
高砂市の防災への取り組みを知りたい。	災害に強い街づくりは最優先事項。市民病院における災害医療体制の維持や、治水対策を重点的に進めている。
市としての物価高対策は。	直近の12月定例会で議決された、生活支援および経済対策の内容について説明

以上